

慢性疾患を有する児童生徒に対する スクールソーシャルワーカーによる 支援の必要性の検討

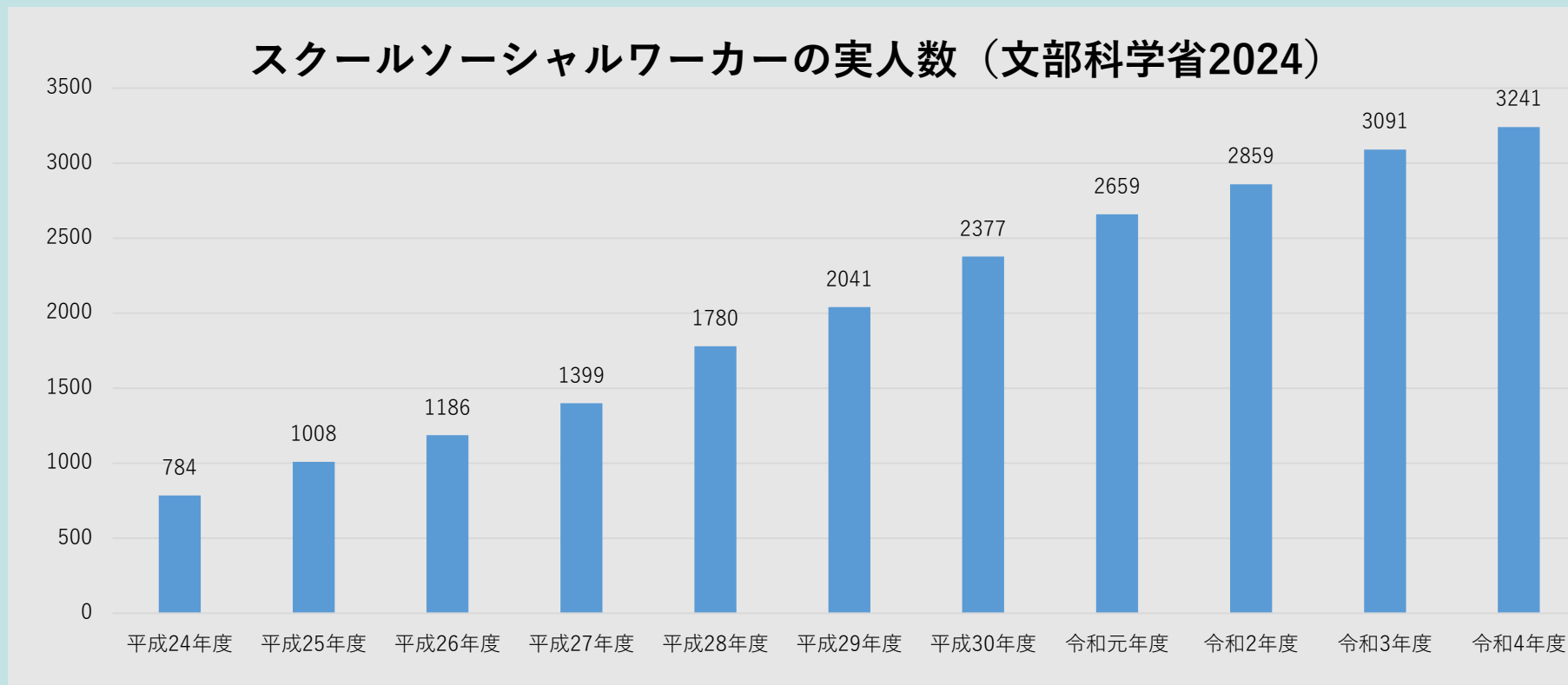
久留米大学 文学部 社会福祉学科

助教 池田 敏

I. 研究の背景

- 文部科学省(2008)「スクールソーシャルワーカー活用事業」
- 中央教育審議会(2015)「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」
- 内閣府(2016)「ニッポン一億人総活躍プラン」

I. 研究の背景



- 学校教育現場において、スクールソーシャルワーカー（以下、SSWと記す）が活動する機会がますます増える。

I. 研究の背景

- 小児医療の進展により, これまで難治とされてきた疾患の生命予後が改善(丹羽2017;平賀2018:81-83;松浦2022:24-26)
- 入院治療後も継続的な治療や生活上の管理が必要な子ども, すなわち, 慢性疾患を有する子どもが増加.

I. 研究の背景

- QOLの観点や在宅医療の推進等により, 地域で生活.
- 慢性疾患を有する児童生徒は, 居住する学区の学校(以下, 居住地校)に在籍することになる.
- 今後, 居住地校に在籍する慢性疾患を有する児童生徒が一層増えていくと想定される.

I. 研究の背景

■ SSWが学校教育現場で活動する機会の増加



■ 居住地校に在籍する慢性疾患を有する児童生徒の増加



■ 今後、学校教育現場で、SSWが慢性疾患を有する児童生徒に関わる機会が増えていくと推察される。

I. 研究の背景

■ 小原真知子・小林理(2010)

「スクールソーシャルワークにおける協働・連携に関する
基礎的研究－高次脳機能障害児の復学支援からの検討」

- 慢性疾患を有する児童生徒に対するSSWによる支援の必要性についての理論的根拠は明示されていない。

Ⅱ. 研究の目的

慢性疾患を有する児童生徒に対するSSWによる支援の必要性についての理論的根拠を示すこと

Ⅲ. 研究の方法

文献研究

- 1) アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷
- 2) 小児慢性特定疾病対策制度の発展過程
- 3) 慢性疾患を有する児童生徒に対する戦後の学校教育
制度の変遷と現状

IV. 倫理的配慮

- 「久留米大学における研究活動に関わる不正行為の防止に関する規定」を遵守し, 規定に示される項目に抵触していないことを確認している.

V. 研究結果①

アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷

- SSWの起源は、20世紀初頭に活動を始めた訪問教師 (visiting teacher)にある(倉石2014:73-274; Shaffer and Fisher2016:7-25;門田2020).
- 訪問教師は、子どもの教育保障に向けて、学校、家庭、地域のつなぎ役を担っていた。

V. 研究結果①

アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷

- 1913～14年, ニューヨークの訪問教師が受けた相談の13%は子どもの不健康(ill-health)を主訴(Johnson 1916:25-26).
- 『the Visiting Teacher in United States』(1921:23-26) 訪問教師に子どもが紹介される理由に「体調(physical condition)」が挙げられている.

V. 研究結果①

アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷

- 特殊教育(special education)における個別教育計画
(Individualized Education Program)への参画
(Allen-Mears, Washington and Welsh=2001:238－285;門田
2010:56－64;Powers, Swick and Cherry2016:99－107).

V. 研究結果①

アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷

- その他の健康障害(other health impairment)
- 「体力, 活力, 注意力が制限され, その結果, 教育環境に対する注意力が制限されること」(U. S. Department of Education2023)
- 喘息, 糖尿病, 心臓病, 腎炎等の慢性または急性の健康問題

V. 研究結果①

アメリカにおけるSSWの支援内容の変遷

SSWは、その活動の起源から現在に至るまで、病気の子どもへの教育保障に向けて支援を行ってきたと言える。

V. 研究結果②

わが国の小児慢性特定疾病対策の発展過程

- 1968(昭和43)年 「先天性代謝異常の医療給付事業」
- 1969(昭和44)年 「血友病の医療給付事業」
- 1971(昭和46)年 「小児がん治療研究事業」
- 1972(昭和47)年 「慢性腎炎・ネフローゼ治療研究事業」
「小児ぜんそく治療研究事業」
- 1974(昭和49)年 「小児慢性特定疾患治療研究事業」

大澤(2016), 三平(2017), 五十嵐(2018), 山縣(2022)

V. 研究結果②

わが国の小児慢性特定疾病対策の発展過程

■ 2005(平成17)年 児童福祉法に基づく事業へ

■ 2015(平成27)年

「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」が新設

【必須事業】相談支援(療育相談指導事業, 巡回相談指導事業等)

【任意事業】一時預かり, 相互交流, 就職支援, 介護者支援,
その他自立支援(学習支援, 身体づくり支援)

V. 研究結果②

わが国の小児慢性特定疾病対策の発展過程

■ 2005(平成17)年 児童福祉法に基づく事業へ

■ 2015(平成27)年

「小児慢性特定疾病児童等自立支援事業」が新設

【必須事業】相談支援(療育相談指導事業, 巡回相談指導事業等)

【任意事業】一時預かり, 相互交流, 就職支援, 介護者支援,
その他自立支援(学習支援, 身体づくり支援)

V. 研究結果②

わが国の小児慢性特定疾病対策の発展過程

■ 掛江直子(2022)

「小児慢性特定疾病対策における自立支援事業に関する現状と課題」

- 必須事業については、ほぼすべての実施主体において何らかの取り組みがなされている。
- 任意事業については、約6割の実施主体が取り組んでいないことが明らかにされている。

V. 研究結果②

わが国の小児慢性特定疾病対策の発展過程

慢性疾患を有する児童生徒に対する学習支援は、十分に行われているとは言えない。

V. 研究結果③

戦後の学校教育制度の変遷と現状

- 1947(昭和22)年 学校教育法制定
- 第23条 : 就学猶予・就学免除 規定
- 治療上, 安静と栄養が重視されていたこと
- 自宅や病院等で過ごす子どもが多くいた

(谷口2009;安藤・任2015:179;伊藤2020)

V. 研究結果③

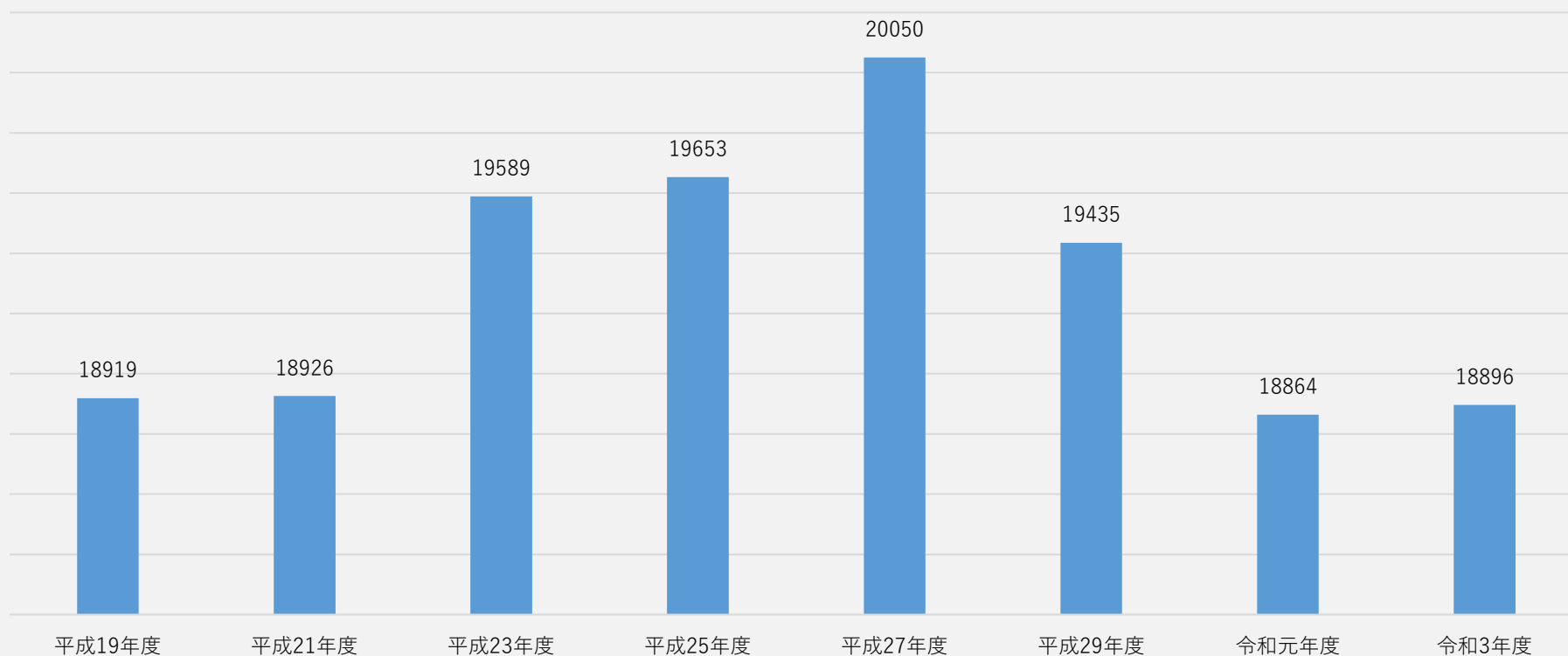
戦後の学校教育制度の変遷と現状

- 1979(昭和54)年 養護学校義務制が施行
- 1984(昭和59)年 全都道府県に病弱養護学校設置
- 医療技術の進展＋病弱教育の対象要件(当時)
- 1994(平成6)年 文部省「病気療養児の教育について」
 - 転校手続きの簡略化, 就学基準の拡張等

V. 研究結果③

戦後の学校教育制度の変遷と現状

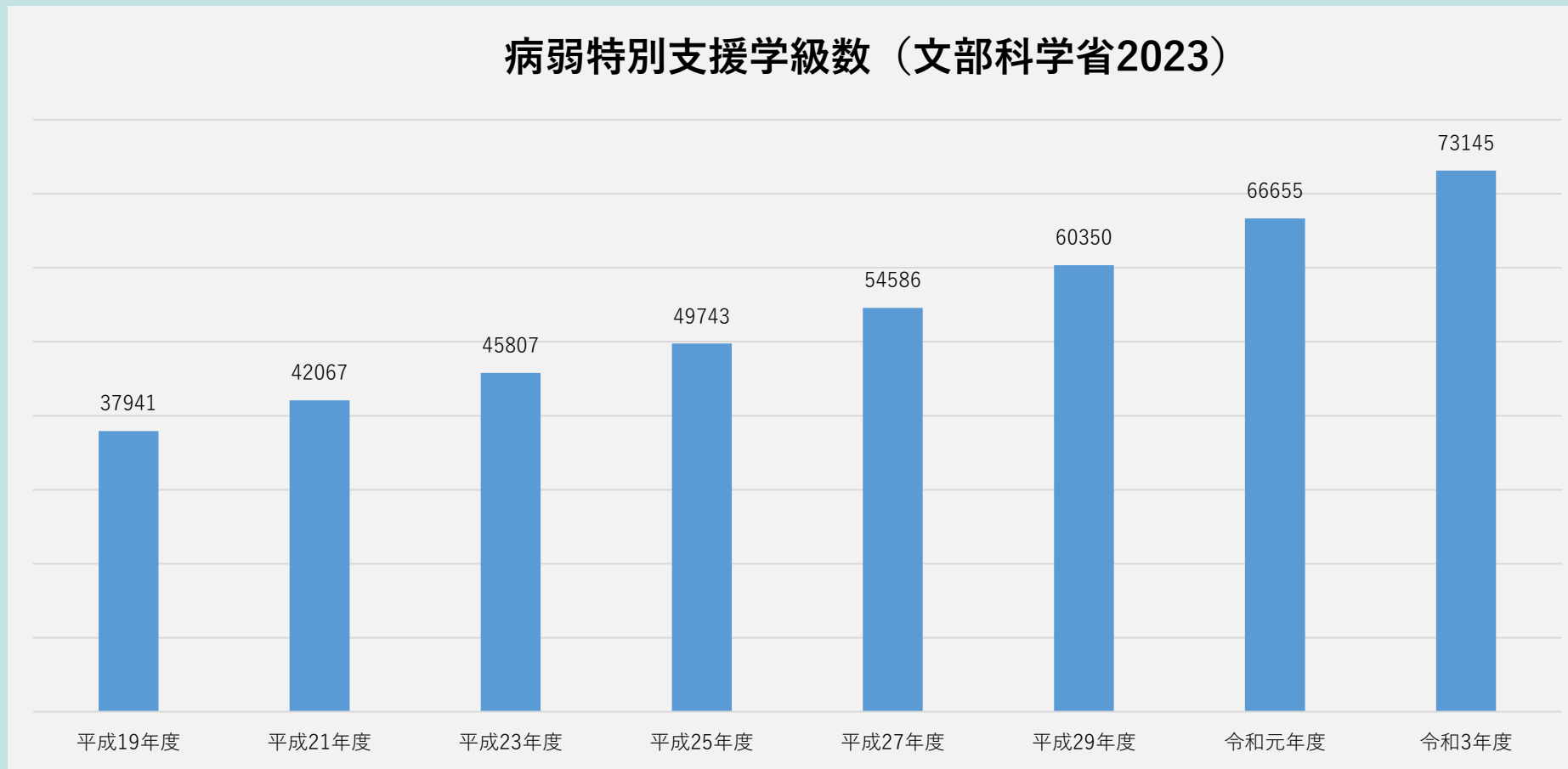
病弱特別支援学校在籍者数（文部科学省2023）



■ 病弱特別支援学校の在籍者数は年々減少傾向

V. 研究結果③

戦後の学校教育制度の変遷と現状

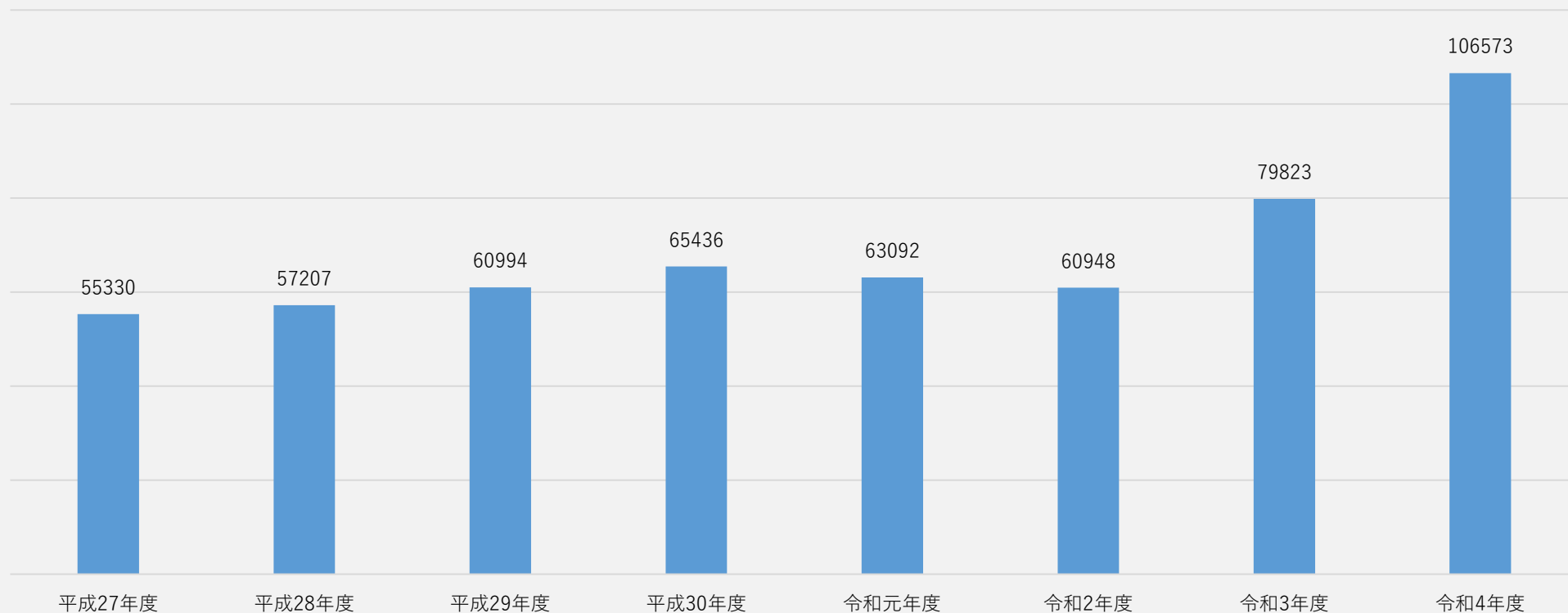


■ 病弱児を対象とした特別支援学級設置数も微増。

V. 研究結果③

戦後の学校教育制度の変遷と現状

病気による長期欠席者数（文部科学省2023）



■ 病気を理由とした長期欠席者は, 増加している.

V. 研究結果③

戦後の学校教育制度の変遷と現状

病弱教育制度は十分に機能しておらず、慢性疾患を有する児童生徒の教育を受ける権利が侵害された状況があると言える。

VI. 考 察

- 1)SSWは, その活動の起源から病気の子どもの支援に携わってきている.
- 2)わが国の病弱教育制度は十分に機能していない.
- 3)慢性疾患を有する児童生徒に対して支援を提供する事業においては, 学習支援を十分に行えていない.

VII. 結 論

SSWには、慢性疾患を有する児童生徒の教育保障に向けた支援が求められていると言える。

主要参考文献

安藤隆男・任龍在(2015)「病弱教育」安藤隆男編著『改訂新版 特別支援教育基礎論』放送大学教育振興会, 174－188.

伊藤佐奈美(2020)「我が国の病弱教育の現状及び課題」『現代教育学部紀要』第12号, 111－118.

Johnson, H. M.(1916)The Visiting Teacher in New York City, Public Education Association of the City of New York.

門田光司(2020)「学校ソーシャルワークの基礎と実践を問う」『学校ソーシャルワーク研究』第15号, 3－18.

主要参考文献

- 三平元(2017)「子どもと家族のニーズとその変化～医療・看護の専門家の視点から～」『現在の小児医療における患者家族滞在施設に対するニーズの検討と理想のハウス実現に向けた基盤の構築事業報告書』8－10.
- 丹羽登(2017)「小児医療の進展に伴う病弱教育の変化と課題」『教育学論究』第9巻第2号, 191－197.
- 大澤眞木子(2016)「小児慢性特定疾患と指定難病」『医学のあゆみ』第258巻第12号, 1111－1116.
- 谷口明子(2009)『長期入院児の心理と教育的援助 院内学級のフィールドワーク』東京大学出版.